

## 糖尿病治療の最前線

# お孫さんにももらった 「生きる力」

初孫の誕生でインスリン治療を決意したMさんのケース



担当医 久保 明先生  
医学博士・  
糖尿病内分泌専門医  
東海大学医学部教授  
高輪メディカルクリニック院長

患者氏名

M・Y様

年齢

55歳

性別

男性

現病歴

糖尿病性神経障害

10

年前に糖尿病を発症されたMさんは、血糖値が常に200〜300mg/dl、ヘモグロビンA1cは9%、中性脂肪も400mg/dlと良くない状態が続いていました。

そのため、5年前からインスリン治療をおすすめしているのですが、「自分のすい臓を弱めるからやりたくない」とかたくなに拒否されます。いろいろな人からの不確かな情報に惑わされていらっしゃるらしく、私の言うことを聞き入れてくださいません。ご自分なりの健康法を試しておられるようですが、それもうまくいっていないご様子です。

さすがに「何とかしなくては」という状態になっていたところ、つい先日驚くべきことが起こりました。突然、Mさんがインスリン治療を始めたとおっしゃったのです。

決意されたきっかけは、息子さん夫婦にお子さんが産まれたことで

した。Mさんにとって初孫です。

「孫の顔を見たら、ちゃんとやらなきゃって思ったよ」とはMさんの弁。お孫さんができた喜びとともに、その成長をずっと見続けたいという願望が、心境の変化につながったのでしょうか。

Mさんは今55歳。お孫さんが成人する頃には、75歳になられるはず。糖尿病が進行すると、そのときまで元気でいられないかもしれない、そうした思いが、Mさんをインスリン治療に踏み切らせたようです。

お孫さんの力とは、本当にすごいものです。私や奥さまがいくらインスリン治療をすすめても耳を貸さなかったMさんを、一瞬で変えてしまったのですから。

近々、Mさんは1カ月検診に来られる予定です。どれだけ治療の効果が出ているか、どれだけ元気なおじいちゃんになっておられるか、変化が楽しみなところです。